

令和7年度 指導計画

テーマ 将来を見通して持続可能な消費生活を主体的に営むための実践力の育成

サブテーマ 持続可能な消費生活の実現のために自ら取り組む力を育む指導内容の工夫

科目名 「家庭基礎」

単元名 第9章 消費行動を考える

内容のまとめり 6 持続可能な社会の構築 7 持続可能な社会をめざす取り組み

1 単元の目標

- (1)消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいた消費行動が取れるようにする。
- (2)生活と環境との関りと持続可能な消費生活や、持続可能な社会へ参画することの意義について理解し、主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考える。
- (3)地球環境問題や国際的な動向を視野に入れ、持続可能な消費生活について考察することができるよう具体的な事例を通して理解するとともに本校のグラディエーションポリシー・育てたい生徒像である「キャリア教育を進めながら、ユネスコスクール加盟校としてSDGsの目標達成に努める」が実践できるようになる。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿勢
<ul style="list-style-type: none"> ・契約に関する理解を深め、生活情報を読み解く力と自分の消費行動について多角的に考える力を身に付けている。 ・主体的な消費行動をとるための知識を身に付け、問題を未然に防ぎ、解決するための制度を理解している。 ・キャッシュレス社会が進む中で、支払い方法のしくみを知り、自分に合った決済手段が選択できる。 ・家庭生活と環境の関りや、持続可能な消費について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として生活情報を活用しながら適切な意思決定に基づいて行動が出来る。 ・大量消費するライフスタイルを見直し、限りある資源の利用について思考することが出来る。また、循環型社会を実現するために自分が出来る事を実践しようとしている。 ・責任ある消費行動と持続可能な社会を目指して主体的に行動し、安心して安全な生活と消費について問題を見いだして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの消費行動が環境や社会に与える影響を理解し、公正で持続可能な社会の実現のために消費者として適切な意思決定ができるとともに、消費者の権利と責任を自覚した消費生活を送り、消費市民社会の一員として積極的に参画しようとしている。 ・情報社会における生活情報とは何かを考え、その適切な活用方法を実践しようとしている。

3 評価と指導の計画（7時間）

時間	【ねらい】・学習活動		備考 ・は評価規準（ ）は評価方法
【単元を貫く課題】 持続可能な消費生活の実現のために、自ら取り組むことが出来る事は何か考えよう。			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・成人年齢の引き下げについて理解する。 ・契約に関する理解を深め、生活情報を読み取る力をつける。 ・販売方法や情報リテラシーを知る。 	知	<div data-bbox="284 432 1445 488" style="border: 2px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【ねらい】 契約に関する理解を深め、自分の消費行動を多角的に考える事ができる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな契約について理解している。 ・インターネットトラブルや個人情報の取り扱いについて考えることが出来る。（ワークシート）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ ① 1回のもりで化粧品を購入したが、定期購入が条件だった ② エキストラの募集に応募したら… ・問題商法とそれに関わる法律を知る 	主 知	<div data-bbox="284 705 1445 801" style="border: 2px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【ねらい】 多様化する販売方法と問題商法について被害を未然に防いだり、早期に解決する方法を考えたりすることが出来る。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の消費者問題の特徴を整理する。 ・消費者トラブルの課題解決に取り組み、情報の活用や意思決定、未然防止、支援の活用について考える。（ワークシート） ・クーリングオフのし方がわかる（ワークシート） ・本時の振り返りをし、自己評価する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な支払い方法を理解する。 ・情報と条件から意思決定に基づいた消費行動を考えることが出来る。 	思 主	<div data-bbox="260 1122 1445 1218" style="border: 2px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【ねらい】 キャッシュレス社会が進む中で、さまざまな支払い方法を理解し、自分に合った決済手段を選択できる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて消費行動ができるよう、考え表現することができる。（ワークシート） ・キャッシュレス社会における商品の購入方法や支払い方法の特徴、安全性の管理について理解している。（定期考査）
<div data-bbox="181 1816 220 1861" style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">6</div> 研究授業 7	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチック問題について現状を知る。（ワークシート） ・地球的規模の環境問題に対して、世界や日本で始まっている持続可能な社会に向けた取り組みを知る。（発表） ・環境に関する与えられたテーマについて調べ、PPにまとめ、発表の準備をする ・まとめた事を発表する。 ・環境に配慮した製品やサービスを選択することができる。 ・他グループの発表を聞き、自分事として環境問題について考えることが出来る。 	思 知 主	<div data-bbox="272 1503 1445 1599" style="border: 2px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【ねらい】 環境問題に対して、持続可能な社会に向けた取り組みを知り、自分の生活に生かすことが出来る。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題について自分事としてとらえ、調べ学習をしたり、PPにまとめたりすることができる。 ・PPにまとめたことを皆の前で発表することが出来る。（発表） ・3Rの考え方を理解している（定期考査） ・循環型社会を形成するための法体系を知り、実生活に生かすことが出来る（ワークシート） ・他グループの発表を聞き、内容を理解しようとしている。（ワークシート）

4 学習活動と評価方法（学習指導案）

科目名		家庭基礎	指導クラス	1年1組
単元名		第9章 消費行動を考える 6 持続可能な社会の構築 7 持続可能な社会をめざす取り組み	使用教科書	図説 家庭基礎
本時の主題		消費者として環境問題に目を向け、持続可能な社会に向けた取り組みを知る。（7/7時間）		
指導観		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が出しているゴミとその処理方法について改めて考え、今後の生活に生かしていく力と視点を養う。 ・ごみ処理方法を知り、ごみ処理問題を自分事として主体的に考えることができる。 ・パワーポイントを使い、調べたことをまとめてプレゼンテーションする力を養う。 ・他グループの発表を聞き、深い学びへと発展することができる。 		
本時の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の環境問題に目を向け、自らの行動や選択を環境にやさしいものに見直して行こう。 		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 5分	本時の学習について 海洋プラスチック問題	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を知る。 ・発表のまとめと準備。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標を伝える。 ・資料を配布する。 ・発表の準備をする。
展開 30分	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・1班の発表「プラスチックと環境問題」 容器包装プラスチックについて樹脂センサーを使い、教室内にある物の分別チェックをする。 ・チェックした物の成分を知る。 ・2班の発表「水と環境問題」 リトマス試験紙を使って水道水と雨水のPH実験をし、雨水が酸性であると確認 ・発表を聞く。 ・3班の発表「ごみゼロ社会」 ゼロウェイストについて自分でもできる事を考え提案する。 ・発表を聞く。 ・SDGsからSWGsへ ボールを地球に見立て、生物が生息できる環境の範囲を知るとともに環境を守るには一人一人の行動が大切であることを知る。 	<p>【主体的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞き、環境問題についての考えが深まっているか。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題について理解を深め、どのような予防策や解決策を講じると良いか考えながら判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表を聞く事で環境について自分の考えを深めさせる。発表生徒を誘導する。 <p><Bを実現するための指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記入状況を机間指導してチェックする。 <p><Cへの手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの机間巡視と助言。 ・ワークシートの記入状況を机間指導しながらアドバイスを与える。 ・資料の配布とグループワークのし方についての説明。
まとめ 15分	本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度チェックをする。（ワークシートの記入） ・地球のために行う行動宣言を考える。 ・行動宣言を発表する。 	<p><Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の前後で自分の変化に気づくことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が出来る事や家族に伝えられる事等をまとめるよう指導する。 ・生徒の変化に着目してコメントする。

5 成果と課題

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な生活について自分ができることを考え実践していこうとしている。 <評価方法> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリント・授業態度 PP内容と発表態度 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の小さな行動が未来や環境に影響することを理解した上で、自分だけでなく、周りにも伝え広げ実践しようとしている。 <評価方法> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリント・授業態度 PP内容と発表態度 	<ul style="list-style-type: none"> 実践していこうとしていない。 ごみについて、自分事として考えていない。 <評価方法> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリント・授業態度 PP内容と発表態度
生徒の状況	(25%) <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入が出来る。 グループ活動で、自分の意見を述べたり、他者の意見をまとめることができていない。 授業の感想が不十分 	(70%) <ul style="list-style-type: none"> グループ活動において自分の意見を発言できる。 グループの意見をまとめることができる。 発表する態度、聞く姿勢が良く、ワークシートの記入がしっかりできている。 	(5%) <ul style="list-style-type: none"> 消費者の行動が大切であることは理解しているが、自分の問題としてとらえることができていない。 授業中の私語が多い。 感想を書いていない。
記述例	<ul style="list-style-type: none"> 地球を大切にしないといけない。 ペットボトルはリサイクルできることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみの分別が大切だということがわかった。 ごみが落ちていたら拾ったり、ポイ捨てしないようにしたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみのことがわかった。

*参考文献：生活学Navi

【まとめと今後の課題】

- PP作成と発表については、合理的配慮の必要な生徒が2名おり、巡回通級の先生や部活動の顧問の先生から助言を頂きながら、本人の興味ある実験を行い発表する指導ができた。
 - プリント記入とPP発表、グループワークや実験など、動きのある授業展開を行ったため、生徒の実態から1時間でプリント1枚を進める事が困難だと思い、2時間かけてじっくり進め、2時間目は振り返りの時間を設けることで、定着を図ることができた。
 - 生徒のPP発表の後、すぐにその内容の補足説明をすることで、より深い学習効果があった。また、視覚に訴える教材をその都度提示したことで、理解を深めることが出来た。
 - 他教科(理科、総合探究、社会と情報)との協働により、多方面からの切り口で授業を構成することができた。
 - 教室にあるものや自分が身に付けているもの、実生活で目にしている物や使用しているものなど、身近な教材を多く取り入れることでゴミについての理解を深めることができた。
 - 地区の夏季研修の講座のワークショップを取り入れることで、地球を未来につなげ、大切にしなければならない事や、自分事として環境問題を考える契機となった。
 - 授業後のアンケートでは、100%の生徒が地球や水を大切にするという視点が備わっており、ごみについても分別しようとする意識が高まった。
 - 今後の課題としては、様々な発達障害に応じて、どこまで対応していき、どのような指導をしたら良いか、地区のスーパーバイザーの先生や通級指導の先生などに相談しながら授業を組み立てていく必要を感じた。
- また、今後は家庭クラブ活動にも繋げる工夫を考えていきたい。